

山口大学農学部・獣医学部同窓会東京支部

山際大志郎氏大臣就任特集

在京農学部・獣医学部同窓会 会員の皆様

V16 1968年卒 深町輝康

コロナ禍にもかかわらず皆様ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、ニューズレター第9号編集作業中（10月4日）、本会会員、山際大志郎衆議院議員（V41、解剖）の大臣（経済再生担当）就任の朗報が飛び込んできました。今回はメインの“軌跡”と“パイオニア”はお休みとし、山際先生特集号としました。

前清水会長から山際先生への応援の詳細を書いていたいただきましたが、関係者全員が、”山際先生は必ず大臣になる”と信じ、国会への初挑戦（平成15年、2003）以降、応援し続けてまいりました。今回の快挙は会員の皆様の弛まぬご声援の賜物と、心から御礼申し上げます。山際先生には大臣就任はスタートであり、健康に留意され、日本国のため精進されることを祈念します。

山際大志郎君の大臣就任を祝う

V9 1961年卒 清水吉弘先生

コロナウイルス感染症（COVID19）のパンデミックにより、この2年近く多くの国民が自粛生活を余儀なくされてきた。ようやくワクチンの接種も全国民の70%に達していると聞いて、もうそろそろ収束に向かってくれればと思っていた矢先、山際大志郎君が経済再生担当大臣に就任したとのニュースが伝えられた。10月4日の岸田新内閣発足に伴ってのことである。コロナウイルス感染症対策も担当されるとのこと、山際さんのこれまでの政治家としての努力と実績が認められたことであり、ご本人の栄誉は勿論のこと、我々同窓会員としても誠に喜ばしいことであります。山際さんはこれまで当選数回を重ねるごとに内閣府政務官、経済産業副大臣、衆議院内閣委員会委員長、自由民主党政務調査会会長代理等、内閣、議会、党務と政治家として豊富な経験を積んでこられました。このことが今日の結果につながってきたのだと思います。今、最も気力も体力も充実し働き盛りの年代であります。コロナ禍で打撃を受けている日本経済の再生と、コロナウイルス感染症を収束させることが最も求められている政治課題であり、大臣としての責務は重大であります。これからの活躍を大いに期待するところです。

さて、山口大学農学部同窓会東京支部では平成19年12月1日、都市センターに於いて同窓会有志および良き理解者にお集まりいただき、「衆議院議員 獣医師 やまぎわ大志郎後援会」を設立しております。その際、後援会長 本好茂一先生から「獣医学を学び獣医師としての山際大志郎君には食の安全、農水畜産業の未来、動物愛護、動物医療、ペット産業、動物検疫、人畜共通伝染病の予防など若い力を発揮し活動されることを期待するものであります。後援会として獣医師 やまぎわ大志郎君の活動を支援し、豊かな国民生活の一助になれば幸いと思っております。」とお言葉をいただきました。なお、当日来賓として日本獣医師会会長代理・同会顧問の前衆議院議員 北村直人先生、東京都獣医師会会長 手塚泰文先生、東京大学大学院教授 林 良博先生、川崎市獣医師会会長 河原田 勝先生、野生動物救護獣医師協会会長 森田 誠先生、同副会長 新妻勲夫先生、練馬区獣医師連盟会長 町田忠彦先生、他多数の来賓の方々にご出席いただきました。

また、令和元年8月21日（水）、自由民主党本部に於いて山口大学全学部で山際大志郎君の政治活動を支援しようと、「衆議院議員山際大志郎 山口大学後援会」を立ち上げております。当日は、岡 正朗

山口大学学長を始め医学部・経済学部・農学部・工学部・教育学部からの有志の出席がありました。岡 正朗学長から「山口大学の現状に関する基調講演」をしていただきました。七村 守 後援会長（経済学部卒）から、今後の後援会活動方針について、講師を迎えて後援会の開催、山際代議士の国会活動報告、母校の最新情報の報告などを計画しているとお話がありました。岸田文雄内閣の経済再生担当大臣として、経済再生とコロナ対策を担当する山際大志郎君を励まし、彼の政治活動を力強く後援していきたいと考えております。山際君、重要課題山積の中、日本国民のため頑張ってください。心から大臣就任おめでとうございまして申し上げますと申し上げる次第です。



山際大臣：後ろから2列目左から2人目
（写真：やまぎわ大志郎事務所提供）

山際大志郎氏大臣就任特集

山際大志郎 大臣主任舞台裏

C23 1993年卒 中嶋久士さん

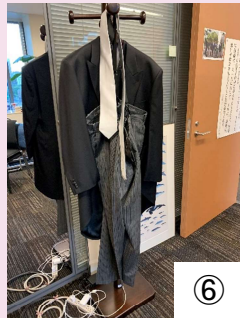
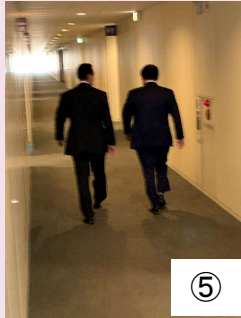
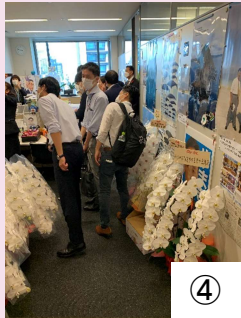
10月4日午後、山際大志郎代議士の議員会館の事務所に向きましたので、会館での様子を報告いたします。週末にかけて多くの報道がございましたので、次々と胡蝶蘭が届いており（写真①）、また報道陣も詰め掛けておりました（写真②）。



15時過ぎに山際代議士登場、官邸からの呼び込みのスタンバイ完了。携帯に連絡が入るのか、事務所の固定電話に連絡があるのか報道陣と談笑中（写真③）。しかしながら、内閣府担当大臣の呼び込みは終盤（15時40分ごろ）との連絡があり、一旦解散。

15時45分に官邸より電話を受け、大臣就任のニュースをテレビで確認し（写真④）、秘書官とともに官邸に向かわれました（写真⑤）。

再び事務所に戻った際は、内閣府経済再生担当大臣としてSPを従えていらっしゃいましたが、写真撮るのを忘れましたスイマセン。その後、こちらのモーニングに着替えて皇居に向われました（写真⑥⑦⑧）。これから大臣としての益々のご活躍をご期待しております。 ※写真⑦⑧：やまぎわ大志郎事務所提供



☆Hot Tips☆

このコーナーでは、事務局の目に留まった動物学、獣医医療、医療、サイエンスなどの最新の情報や耳よりな情報（Hot Tips）をお届けします。

「猫が30歳まで生きる日」 ～「ネコの宿命」腎臓病の治療法を開発 寿命が2倍、最長30年にも～

ネコを飼った経験のある人の多くはご存じだろうが、ほとんどのイエネコは高齢になると腎臓病を発症する。愛猫家の心を痛めるこの問題で、発症の原因を解明し、治療法を開発したのが東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センターの宮崎徹教授(59)。現在はネコ用の腎臓病治療薬を世に出すために奔走している。(時事ドットコム編集部)

宮崎先生は獣医師ではなく、人間の病気を治すお医者さんなのに、なぜネコの腎臓病治療に取り組まれたのでしょうか？

私(宮崎教授)は30年ほど前、バーゼル免疫学研究所(スイス)在籍時に、人間の血液中に高い濃度で含まれているタンパク質を発見しました。人間の体には、体内に侵入した細菌や異物を食べて病気にならないように守る免疫細胞「マクロファージ」が備わっています。「マクロファージを死にくくする・元気にする」という意味の英語の頭文字を取り、「AIM」と名付けました。

10年ほど研究を続け、動脈硬化の成り立ちに関係したり、脂肪細胞にたまっている脂肪を小さくしたりすることなどが判明しました。ある時ふと「人間以外の動物もAIMを持っているのだろうか」と考えて、イヌやネコの血液を調べてみると、ネコだけAIMを持っていませんでした。正確には「持っているけど、他の動物のように機能していない」ということです。ある時、獣医師さんと話していて「ネコのほとんどは年を取ると腎臓病になる」ことを知り、ピンとききました。

腎臓で血液の中の老廃物をろ過して尿として体外に流していきますが、多くの腎臓病は、その尿の通りの道の最初の部分がゴミで詰まってしまい、腎臓が徐々に壊れていくために起こります。でも、AIMがきちんと働いていれば、そういった詰まりはその都度、AIMが解消してくれるのです。AIMが機能しないネコは、腎臓病になるということです。腎臓はある程度の部分までは壊れても機能しますが、詰まったゴミがうまく取り除かれず、腎臓の破壊が何年もかけて少しずつ進み、ある時、腎不全を起こします。きちんと機能するAIMを注入してやれば、腎臓病の進行を止められる、その様な効果を多くのネコで確認しました。

AIMはタンパク質です。タンパク質製剤は化学合成できる粉薬や錠剤と違い、生きている培養細胞に作らせて、そこから純度の高いAIMを精製する必要があります。ある企業がスポンサーになり、治験薬を作り国から薬としての承認を受ける治験を行うめどが立っていました。ところが、新型コロナウイルスのせいで、プロジェクトはいったん中断しています。

何とかプロジェクトを再開させ、この新薬の誕生で、ネコが30歳くらいまで生きられる日がもうそこまで来ています(談:宮崎教授)。

取材編集:同窓会事務局編集部が(2021.7.11.時事通信社、東大大学院・宮崎徹教授インタビュー8月刊行の記事)を要約編集しました。

山口大学名誉教授・東亜大学獣医看護学コース客員教授 中間實徳先生（元・山口県獣医師会長）

～山口大学農学部獣医学科・共同獣医学部のルーツ～

皆さまお元気でご活躍の事と拝察致します。現在コロナ禍で日本は勿論世界中でこれまで経験した事のない大変な時期を迎えています。東京オリンピック・パラリンピックも何とかこの難局を乗り越えて元の活気ある日本にしたいですね！

山口大学50周年記念誌（平成11年3月発行）の1ページにある”創立前史”には、【農学部の前身である山口高等獣医学校が吉敷郡小郡町に創立されたのは、太平洋戦争も末期、敗色が漂い始めた1944年(昭和19年)1月である。翌年3月には山口獣医畜産専門学校と改称され、1948年(昭和23年)末に下関市長府町へ移転となった。山口大学農学部への発展的な改称に伴い1952年(昭和27年)に廃校となった。8年の短い歴史だったが202名の卒業生を世に送り出した。】と記載されています。

山口獣医専門学校三期の卒業生で日本大学農学部畜産学科へ進学され、東京大学農学部家畜内科学助教授を経て、日本獣医畜産大学(現・日本獣医生命科学大学)家畜内科学教授から退職後名誉教授となられた本好茂一先生とは、カナダ・モントリオールでの世界獣医学会の他、国内でも何回も会っていました。東京の学会で会った時、山口獣医専門学校の卒業生がだんだん少なくなって寂しくなっているの、専門学校のあった小郡の地に山口獣医専門学校の記念碑を作るように働きかけて頂けないかと、当時山口県獣医師会会長を務めていた私に相談がありました。2000年5月の山口県獣医師会総会の後、懇親会の席で私は本好先生のご提案を披露し、獣医専だけでは寄付が集まり難いと判断し、「山口大学獣医学科発祥の地」という文言を記念碑に書くようにして、大多数の賛同を得ました。山口県獣医師会入口(JR山口線下郷駅近くのふれあい通り)に小郡町の土地が三角地に残っているところを小郡町長から提供して頂き、獣医専と大学の卒業生からのカンパで自然石の立派な記念碑が完成し、2001年3月4日には除幕式が本好先生を招いて挙行されました。自分を育ててくれた母校のルーツを知ることは、同窓の絆を強める事にもなります。未だ見たことのない方は一度訪ねてみて下さい。(2021年8月2日記)

「山口獣医専跡 山口大学獣医学科発祥の地」と書かれた記念碑



ふれあい通りに立っている
山口県獣医師会館入口の看
板と獣医専跡の石碑



記念碑と筆者



記念碑裏には下記の事が書かれています

学舎変遷
1944.4.～1948.12. 小郡町下郷
1949.1.～1966.12. 下関市長府
1967.1.～ 山口市吉田
2001年1月 建立
記念碑建立発起人会

このタイトルとは異なりますが、私が山口大学へ赴任してからの出来事などを紹介させていただきます。私は1981年(昭和56年)1月大阪府立大学家畜外科学教室(講師)から山口大学助教授として赴任しました。当時、外科教室には大塚宏光教授、福田好博助手、家畜内科学教室には松本治康教授、原 行雄講師、家畜病院には阿武雅夫教授、白水完治助手がおられました。毎年秋の獣医学会の後開催されていた全国大学家畜病院会議では、前年度の家畜病院運営状況が報告されていました。そこでは家畜病院の年間収入も報告されていましたが、山口大学は全国16大学中、鳥取大学に次いで下から2番目の収入でした。私は1978年から1979年に文部省在外研究員として、アメリカ・ミズリー大学獣医学部へ留学し、その時にDr. Bo jrabから学んだ「犬の椎間板ヘルニアに対する椎間版腹側造窓術」を帰国してから、臨床応用し良好な成績を収めました(中間實徳他：日本獣医師会雑誌35：307-310(1982))。椎間板ヘルニアに対する手術は日本では未だ誰もやっていませんでしたので、北海道から沖縄までの各地の獣医師会や、東京大学或いは台北大学でも講演を依頼されました。1981年10月には福田講師が退官、同年11月に田中幹朗助手を東大から迎え、夜遅くまで手術等をしたお陰で、家畜病院の収入は東大に次いで2番目になりました。昭和57年12月には大塚先生が母校の宮崎大学へ帰られました。平成元年8月田中教授が不慮の交通事故死の後、平成2年1月に鹿児島大学臨床繁殖学の田浦保徳助教授を助教授に迎えました。平成2年4月山口大学を基幹校として鳥取大学、宮崎大学、鹿児島大学を含む4大学の連合大学院が発足しました。平成5年9月には、日本の獣医界では最初のMRI が山口大学へ導入されました。2012年(平成24年)4月に山口大学と鹿児島大学の2獣医学科が共同獣医学部として発足しました。

また、私が山口県獣医師会長時に、山口大学獣医学科優秀学生に山口県獣医師会長賞を贈ることにし、卒業式には獣医師会長の祝辞を述べ、獣医師としての心構えや山大出身という誇りをもって社会で活躍して貰いたいと話しています。

母校便り：共同獣医学部 獣医薬理学教室

- 在籍者 教員2名（教授・佐藤晃一、准教授・大浜剛）
技術補佐員（田中）
院生5名（D4：津村 D3：清末 D2：池田、北村、D1：幸柳）
学部生3名（V6：富田、V5：安藤、V4：壹岐）
- 研究 タンパク質脱リン酸化酵素の活性制御とその破綻によるがんや炎症性疾患の発症の分子機構を主に研究しています。
- 進路 昨年度卒業の松本さん（卒論課題：Checkpoint kinase 1はprotein phosphatase 2Aとその阻害タンパク質PME-1のタンパク質結合を制御する）は川澄化学工業に就職し、幸柳君（卒論課題：PP2A阻害タンパク質SETの細胞内タンパク質レベルを制御する分子機構の解明）は大学院に進学しました。



🍷 バトンコーナー ～私の近況～

V46, 2000年卒 根目沢美帆さん(旧姓:藤木さん)

前回ご寄稿の吉田修二さんよりバトンを受け取りました、2000年3月農学部獣医学科卒業の根目沢美帆(旧 藤木)です。

大学時代は家畜内科学教室に所属しておりましたが、卒業後は適性と興味の観点から早々に臨床から離れ、以降は一貫して、農薬の安全性評価と規制対応に携わっております。あまり知られていないかも知れませんが、農薬も、医薬品同様、各国で認可(登録)されたものしか製造、流通、使用できません。登録取得には効果と安全性の両方が認められる必要があります、うち、農作物に微量残る農薬をヒトが摂取した際の安全性については、実験動物のデータに基づいて審査が行われますので、この分野では各国で獣医師が活躍しています。こうして専門性を活かしつつ、ヒトの安全な生活と食料の安定供給に貢献するというやりがいを持って働いております。また、現在は米国の農薬メーカーで勤務しており、外資系ならではの多様性、個人裁量の高さ、家庭との両立のしやすさも、働きやすく充実した日々の一助になっています。

プライベートでは、夫と中1、小3の娘の4人で東京郊外に暮らしております。都心への通勤はそこそこ大変でしたが、コロナ禍を機に在宅勤務となり、ワークライフバランスと生産性の向上を実感しています。元々踊ることが好きで、今は趣味で数年前からバレエをやっています。子供のように高い柔軟性や吸収力がないことを補うべく、大人らしく頭を使って効率良く、また日頃の隙間時間にうまくトレーニングを取り入れるなどして、小さな目標に向かって楽しく取り組んでいます。今は何より、マスクを外して練習できる日、集まって大きな舞台ができる日が待ち遠しいです。なかなか大変な世の中ではありますが、皆様もどうか、日々の小さなあたり前に感謝して、楽しく安全にお過ごし下さいますようお願いしております。



訃報

後藤直彰先生（元獣医病理学教室教授）が令和2年10月に永眠されました。
本好茂一先生（S3、昭和23年獣医専卒）が令和2年9月に永眠されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。（合掌）

会長 深町 輝康 (V16,S43卒) : smile-vet@chic.ocn.ne.jp
事務局 桑野 昭 (V21,S48卒) : kuwa5ayt@green.ocn.ne.jp
久保田 徹 (C2,S47卒) : tkubota39@m7.gyao.ne.jp

吉田 恵子 (V48,H14卒) : keicho@mth.biglobe.ne.jp
平川 由佳 (V53,H19卒) : vspiyo@yahoo.co.jp

メール配信にご協力をお願いします。皆様のメールアドレスを事務局までお知らせください。
BCC配信ですのでアドレスは公開されません。

同窓会ホームページからもご登録いただけます。
<https://yamaguchiagrivet.wixsite.com/tokyo>



編集後記

今年も自粛の一年でした。個人的にこの禍で思いがけず良かった事は、各種学会やセミナーがWEB開催となり、手軽に参加しやすくなった事です。でもやはり、たまには直接顔を合わせ他愛のない話もしたり、その場の空気を感じたいと思ったりもします。同窓会を開催できるようになる日が待ち遠しいです。事務局 吉田

発行人/山口大学農学部・獣医学部同窓会東京支部